

全国物理コンテスト

筑波大で7月開催

県内から中高生25人応募

高校生などが物理の実力を競う全国コンテスト「物理チャレンジ二〇〇七」が七月二十九日から四日間、つくば市天万台の筑波大で開かれる。今年で三回目で、本県開催は初めて。来年七月にベトナムで開かれる「国際物理オリンピック」の日本代表選考も兼ねている。予選は六月、全国の高校・大学五十二会場で行われ、県内の中高生二十五人を含む総勢約四百二十人が応募。「未来のアイシシユタインを目指

し、開催県から国際物理五輪の日本代表を」と、関係者の期待は高まっている。

物理チャレンジは、中学生に物理の面白さを知ってもらおうと日本物理学会などが企画。第一回大会は二〇〇五年、アイシシユタインが特殊相対性理論を発表してから百周年に当たる「世界物理年」を記念して岡山県で開かれ、成績優秀者五人を昨年の国際物理五輪シンガポール大会に初めて派遣。八十六の国と地

域から約四百人が出場した中、日本代表は銀メダル一、銅メダル三、入賞一的好成绩を取めた。今年に応募は四月に締め切られ、県内から中学生一人、高校生二十四人が申し込んだ。六月の予選は、理論問題のテストと実験課題のレポートで本選出場者百人を選抜する。「実験課題が物理チャレンジの特長。ある課題を証明する実験方法を自分で考え、自宅や学校で身近な材料を使って実際に実験し、レポートに

まとめるもので、受験勉強に慣れた中高生にはかなりの難関」（県内の高校理科教諭）という。

七月の本選は、三泊四日の合宿形式で行われ、国際物理五輪と同じスタイルで、それぞれ五時間の理論と実験のコンテストに挑む。本県開催を記念し、ノーベル物理学賞受賞者の江崎玲於奈元筑波大学長の講演も予定されている。

本県勢は第一回大会で銀賞二人を含む三人が入賞したが、昨年は本選出場者はゼロだった。県教委高校教育課は「好奇心の赴くままに実験に挑戦し、物理の世界の面白さに触れてほしい」と、応募した中高生二十五人に

メールを送っている。

（山本和朗）

（山本和朗）

（山本和朗）

（山本和朗）